

腺性歯原性嚢胞との鑑別を要した含歯性嚢胞の1例

櫻井裕子¹ 遊佐淳子¹ 小澤 亮¹
伊東博司¹ 赤城陽一郎² 浜田智弘²
菅野勝也² 森蔭由喜² 高田 訓²

A Case of a Dentigerous Cyst Requiring Differentiation from Glandular Odontogenic Cysts

Yuuko SAKURAI¹, Junko YUSA¹, Ryou OZAWA¹
Hiroshi ITO¹, Youichirou AKAGI², Tomohiro HAMADA²
Katsuya KANNO², Yoshiki MORIKAGE² and Satoshi TAKADA²

To our knowledge, no case has been reported where a dentigerous cyst with so many mucous cells that a differential diagnosis from a glandular odontogenic cyst is in need. A 16-year-old boy visited our hospital because of an anterior maxillary swelling. It was clinically diagnosed as a dentigerous cyst. We performed cyst enucleation. Histopathological examination of the specimen revealed that the cyst had a nonkeratinized stratified epithelial lining. Within the lining epithelium, a large number of mucous cells were observed. Some of the mucous cells formed acinus-like structures. The final diagnosis was a dentigerous cyst with many mucous cells.

Key words : dentigerous cyst, glandular odontogenic cyst, differential diagnosis

緒 言

腺性歯原性嚢胞は嚢胞上皮組織に腺管形成や粘液細胞の出現をみる希な嚢胞である^{1,2)}。粘液細胞が嚢胞上皮に少数出現することは、歯原性嚢胞の一つである含歯性嚢胞において時にみいだされる現象である^{3,4)}。今回我々は上顎前歯部に発生した含歯性嚢胞で、病理組織学的に腺性歯原性嚢胞との鑑別を要した症例を経験したので、その概要を報告する。

症 例

患者：16歳，男子

初診：2012年7月

主訴：上顎前歯部の腫脹

家族歴および既往歴：特記事項なし

現病歴：1か月前から上顎左側前歯部の腫脹を自覚していたが、疼痛がないため様子を見ていたところ、腫脹の増大傾向を感じたので、本学附属病院を受診した。

口腔内所見：上顎左側犬歯部から上顎右側側切歯部にかけての唇側歯肉および歯槽粘膜は健康色を呈していたが、同領域の歯根尖部は腫脹していた。腫脹部では波動を触知し、軽度の圧痛を認めた。

X線写真所見：パノラマエックス線像で、上顎

受付：平成25年4月5日，受理：平成25年5月10日
奥羽大学歯学部口腔病態解析制御学講座口腔病理学分野
奥羽大学歯学部口腔外科学講座²

Division of Oral Pathology, Department of Oral
Medical Sciences, Ohu University School of Dentistry¹
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Ohu
University School of Dentistry²

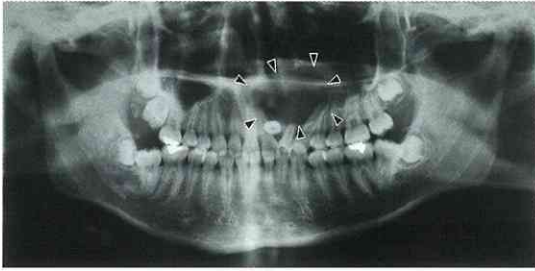


図1 パノラマX線写真
左側上顎前歯部に埋伏歯を伴う嚢胞様透過像を認めた(矢頭)

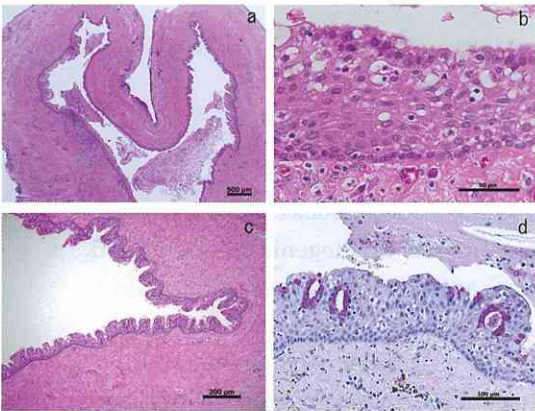


図2 病理組織写真(a, b, c: H-E染色, d: ムチカルミン染色)
a: 不規則な厚さの嚢胞上皮
b: 嚢胞上皮表層の好酸性立方上皮細胞と線毛細胞
c: 嚢胞上皮の乳頭状突出
d: 粘液産生細胞と腺房様構造

左側側切歯の根尖相当部に埋伏過剰歯を含む透過像が認められた(図1)。

臨床診断：含菌性嚢胞

処置および経過：埋伏過剰歯を抜去したのち、嚢胞を摘出し、創は縫合閉鎖した。術後経過は良好で、術後8か月の現在まで再発等の異常はない。

病理組織学的所見：摘出された嚢胞は単房性で、嚢胞壁は線維性結合組織によりなっていた。嚢胞上皮は非角化重層上皮で種々の厚さを呈し、部分的には嚢胞上皮が嚢胞腔内に向かって乳頭状に隆起していた。嚢胞上皮の表層には主として好酸性立方状の細胞が配列しており、そこでは線毛を有する細胞および粘液産生細胞も多数みられた。嚢胞上皮内には粘液産生細胞によって構成された腺房様の構造が観察されたが、立方状または円柱状

表1 Microscopic parameters in glandular odontogenic cyst

Parameter	No. & % of cases (N=46)
Eosinophilic cuboidal cells	46 (100%)
Microcysts	44 (95.7%)
Apocrine snouting	42 (91.3%)
Clear (vacuolated) cells	41 (89.1%)
Variable thickness	41 (89.1%)
Tufting (papillary projection)	39 (84.8%)
Mucous cells	33 (71.7%)
Epithelial sheres	31 (67.4%)
Multiple compartments	29 (63.0%)
Cilia	10 (21.7%)

文献⁹⁾より引用

の細胞に囲まれた腺管様構造は認められなかった(図2)。

病理組織診断：多数の粘液細胞を伴った含菌性嚢胞

考 察

今回、我々は嚢胞上皮表層に多数の粘液産生細胞の出現をみる非典型的含菌性嚢胞の1例を経験した。粘液杯細胞化生は、含菌性嚢胞の裏装上皮の構成要素の一つとなつていわれているが³⁾、本例のように、粘液腺房様構造が形成されるほど多数の粘液杯細胞が出現した含菌性嚢胞は報告されていない。

嚢胞上皮表層細胞が粘液杯細胞化生を伴う立方状細胞であることは、腺性菌原性嚢胞の嚢胞上皮においてしばしばみいだされる組織所見であり、粘液分泌細胞への分化は、腺管への分化とともに腺性菌原性嚢胞の特徴であるとされる¹⁾。本例の嚢胞上皮内には粘液分泌細胞からなる腺房様構造が観察されたが、腺管形成は認められなかった。腺性菌原性嚢胞とその他の嚢胞とを鑑別するための病理組織学的所見としてCraigら⁵⁾は10項目のパラメーターを挙げており(表1)、それらうちの7項目以上がみられたときには腺性菌原性嚢胞である可能性が高いとしている。

本例ではCraig⁵⁾らが述べた腺性菌原性嚢胞と鑑別診断するためのパラメーター10項目中の5項目、すなわち、好酸性立方状細胞、嚢胞上皮の厚さの不規則性、嚢胞上皮の乳頭状突出、粘液細胞、および線毛しか確認されなかったことから、

本例は腺性歯原性嚢胞ではなく、含歯性嚢胞と病理組織診断するのが妥当である。

腺性歯原性嚢胞の発生由来については、顎骨内への唾液腺組織の迷入がなくとも裏装上皮の化生的機序により粘液細胞が発生し腺管状構造が形成され、その内腔に粘液を貯留する嚢胞病変が発生した可能性を示唆する報告⁶⁾があり、本例ではCraigら⁵⁾のいう10のパラメーター項目の半数が本例にみられたこと、および、埋伏歯を伴う腺性歯原性嚢胞が報告されている⁷⁾ことから、本例が腺性歯原性嚢胞へ移行しつつある含歯性嚢胞である可能性も推察される。

結 語

今回我々は、16歳男性の上顎左側側切歯部に発生した、腺性歯原性嚢胞との鑑別が必要な含歯性嚢胞の1例を経験したので報告した。

文 献

- 1) Robert, A. R. and Steven, D. V. : Glandular odontogenic cyst. AFIP ATLAS OF TUMOR PATHOLOGY Series 4 Tumors and cysts of the jaws. ; 26-30 ARP Press Maryland 2012.
- 2) Kramer I. R. H., Pindborg J. J. and Shear M. : 腺性歯原性嚢胞：唾液腺歯原性嚢胞. WHO 歯

原性腫瘍の組織学的分類；34-35 医歯薬出版 東京 1996.

- 3) Robert, A. R. and Steven, D. V. : Dentigerous cyst. AFIP ATLAS OF TUMOR PATHOLOGY Series 4 Tumors and cysts of the jaws. ; 18-21 ARP Press Maryland 2012.
- 4) Kramer I. R. H., Pindborg J. J. and Shear M. : 含歯性（濾胞性）嚢胞. WHO 歯原性腫瘍の組織学的分類；32-33 医歯薬出版 東京 1996.
- 5) Crain, B. F., Robert B. B., Harvey, P. K., James, T. C. and Michael, A. K. : Glandular odontogenic cyst : Analysis of 46 cases with special emphasis on microscopic criteria for diagnosis. Head and Neck Pathol. 5 ; 364-375 2011.
- 6) 沖田美千子, 針谷靖史, 関口 隆, 原田雅史, 大内知之, 中山英二 : 下顎前歯部に発生した腺性歯原性嚢胞の1例. 日口外誌 57 ; 109-113 2011.
- 7) 岡本喜之, 川田賢介, 岩井俊憲, 小澤幹夫, 菊池良直, 石川好美 : 右側下顎智歯部に発生した腺性歯原性嚢胞の1例. 日口外誌 52 ; 11-14 2006.

著者への連絡先：櫻井裕子, (〒963-8611)郡山市富田町字三角堂31-1 奥羽大学歯学部口腔病態解析制御学講座口腔病理学分野

Reprint requests : Yuuko SAKURAI, Division of Oral Pathology, Department of Oral Medical Sciences, Ohu University School of Dentistry
31-1 Misumido, Tomita, Koriyama, 963-8611, Japan